

1 他害や多動の園児・児童生徒についての対応・連携について

アドバイザー：青森県発達障害者支援センター「ステップ」 町田 徳子氏

障害受容の難しい保護者への伝え方について

【こんなことで悩んでいます】

- ・保護者が医療機関を受診する気持ちがないと、専門機関につなげられない……。
- ・手帳申請時、保護者へどう説明したら良いか……。
- ・診断することに対してマイナスのイメージをもっている……。
- ・原因は学校にあるので学校で対応して欲しいと言われるが……。

【こんな対応をしています】

- その子のことを知る!→その結果が ADHD だったりするが、保護者は障害を『壁』と捉えていることが多いのでは？
- 「障害児保育は、うちはしないから」と言われると、保護者は「うちの子はダメなのかな」と思ってしまう。
- 保護者と個人的に面談すれば、「実は……」と話してくれることもある。
- 集団での姿、家庭での姿は違うと伝えている。
- 就学先の準備が必要なことを伝え、診断してもらうように伝えている。早めにしないと困るのは子ども自身であることを伝えている。
- 療育を受けることで、子どもにプラスのことが多くなることを保護者に伝えている。
- 本人が他害、SOS を出して困っているのを、一緒に何とかしたいということで第3者(町田さんのところの巡回相談)に入ってもらおうのか。

町田先生より



☆お子さんの訪問支援で、得手不得手や特性の整理をし、保護者との面談をし、第三者から見た、お子さんの集団での様子や診断はできないが、「こういう特徴のお子さんですよ。」とお伝えすることはできる。

☆保護者の障害受容に関しては、子どもに障害があるとすぐつらく、認めたくないことだと思う。時間がかかることだと想定する。受け入れたくない不安の現れだと思う。「お家のことについても良いことも悪いことも、お互いに情報共有させてください、お力を貸してください。」と伝えていく。1歳頃には、特徴が一番出るので、その頃には分かっていると思う。

他害などの問題行動のある子への対応

【こんなことで悩んでいます】

- ・押ししたり、たたいたり、乱暴なところがある。強く叱ってしまうことがあるが、その子にあった対応が知りたい・・・。
- ・勝負に負けると泣いて暴れる子への対応はどうしたらよいか・・・。
- ・気に入らないことがあると、激しい言葉をぶつける子への対応はどうしたらよいか・・・。
- ・3歳児で言葉が出ない子が、友達を押ししたり、先生の顔をたたいたり、絵カードを用いて伝えてもくるくる歩き回っていてなかなか伝わらない・・・。
- ・欲しいものが伝えられずに手が出たり、頭で押してきたりする子への対応はどうしたらよいか・・・。

【こんな対応をしています】

- 個別に注意している。
- 次につなげていく必要があるため、「語る会」を実施している。対象児が“どんなとき”に“どんな言葉”で“どんな行動をしたか”を文書で引き継いでいる。
- 全クラス2人体制で指導にあたっている。活躍の場を作ってあげるようにしたら落ち着いてきている。
- それぞれの子によって絵カードで伝わらない場合は、具体物で伝える。その環境でどう伝えていて、本人がどう学習しているのかを見取る必要がある。具体物、写真、イラスト、線画など、どれに注目がいくのか、その子にとって分かりやすい支援ツールを探る必要がある。

☆自閉症のお子さんは5歳程度遅れて発達し、感情調整が難しい。イライラの度合いを整理する。発散方法を見付けることも大切である。対処よりは予防をすることの方が大事。どうやったら伝わるのかを色々なところから分析してみるとよい。

☆他害について、必ず理由がある。

→冰山モデルで水面下の原因を、関わっている何人かで見えていくことや、先行事象、結果事象は何かを見て仮説を立てるとよい。

☆“多動”は、生まれながらに脳の作りが違う。脳がそうさせてくれない。勝手に動いてしまう。10歳前後くらいまでは、動く機会作りをするとよい。例えば、黒板消しやプリントを届ける時間を設ける。

☆ルール作りや「これとこれをやったら、これをやるよ」や「シールがたまったら、ビデオ延長」などの発達障害の子は動機作りが大事。

町田先生より

